

令和2年度第1回瀬戸市図書館協議会
議事録（案）

日時：令和2年11月12日（木）午前9時57分から11時40分まで

場所：瀬戸市立図書館 1階 集会室

出席者：17名

<委員> 中井 孝幸（会長）、加藤 和守（副会長）、秋山 理咲子、石川 良文、
加藤 絹子、新海 弘之、丹羽 光成、早川 寿、福田 直美、馬宮 孝好

<市> 教育長 横山 彰

<事務局> 教育部長 林 敏彦、図書館長 吉村 きみ、図書館主事 村井 理紗子
会計年度任用職員 細川 かおり・加藤 小百合

<オブザーバー> 図書館と地域をむすぶ協議会 太田 剛

欠席者：なし

傍聴者：2名

議事内容：

1 開会

事務局（図書館長）進行

- ・ 会議成立の報告
- ・ 傍聴者へ注意事項の説明
- ・ 委員へ議事内容記録のための録音の説明

2 あいさつ

○教育長

コロナの影響で延期されていた第1回の図書館協議会が開催でき大変喜ばしい。さて、瀬戸市では、すべての子どもたちが、「瀬戸で学んでよかった」すべての親たちが「わが子を瀬戸で育ててよかった」、そしてすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」を教育の基本理念としている。その教育の担い手は市民全員であると位置づけ、この教育の創造と展開を図っている。その一つとして、この4月に小中一貫校にじの丘学園が開校した。また、中学校ブロックをかたまりとした小中一貫教育も始動しているところである。本市の教育の特徴としては、協働型課題解決能力の向上、郷土愛の醸成の2つを目標とし、キャリア教育、国際教育、地域教育、ICT教育、これらを9年間切れ目無く行っていく。そのにじの丘学園の中心にある「にじの丘ライブラリー地域図書館」が市内7番目の地域図書館として、10月にオープンした。このライブラリーは、学校の中心に位置し、壁が無くオープンなスペースとなっている。平日は学校図書館として、多くの子どもたちが利用し、土日には地域図書館として多くの市民に使用されており、瀬戸市の目指す教育の一端を成しているところであ

る。

本日の議題でもある図書館の利活用計画については、地域図書館を含めた全ての図書館、具体的には「本館」、「情報ライブラリー」、「7つの小中学校の学校図書館」、これらにおいてそれぞれの図書館の連携と役割を明確にし、全体で図書館サービスを行っていきたいと考えている。委員の皆様には忌憚のない意見をお伺いし、活発な議論がなされることを願っている。

○事務局（図書館長）

・資料確認

3 委員紹介

○事務局（図書館長）

瀬戸市図書館協議会条例第3条の協議会は委員10人以内で組織するとの規定に基づき、10人の委員を選任している。時間の都合上、配布資料の瀬戸市図書館協議会委員名簿をもって紹介とする。

4 議事

○事務局（図書館長）

議事に移る。会議の議長は本来、会長が務めることとなっているが、まだ、会長が選任されていないため、選任されるまでの間、代わりに務めさせていただく。

(1) 会長・副会長の選任について

○事務局（図書館長）

昨年を引き続き、会長を中井孝幸委員、副会長を加藤和守委員にお願いしたいがいかがか。賛同いただける方は、拍手をお願いします。

(拍手)

では、会長に中井孝幸委員、副会長に加藤和守委員を選任することでご承認いただけたこととする。中井会長には、会長就任のごあいさつをいただいた後、議長としての議事進行をお願いします。

○会長

にじの丘学園地域図書館については、私どもの研究室ですでに調査をさせていただいた。平日、子どもたちに使われている様子と、休日、地域図書館として使われている様子を2回調査した。中学生と小学生が初めて空間を共有するという事で、色々なご心配があったと聞いているが、いざ始まってみると、中学生が小学生の手を引いて図書館へ入ったり、さらに、その様子を遠くから見ている男子中学生など微笑ましい様子がみられた。使わなくても、使っている様子を見ているというのは、にじの丘学園に公共の空間が出来たという事で、非

常に良いことである。地域図書館としては、現在のオープンしたてのにぎやかな状況を活かしながら使っていただきたいと思うし、子ども連れの家族が毎時間毎時間来ており、また、平日は20分放課しかないが、休日はゆっくり時間を使えるため、土日にお父さん・お母さんとゆっくり本を選ぶという使われ方も始まっている。このように、本来あるべき姿が見えたと思うので、こういった取り組みを核に、瀬戸市の今ある施設を上手く使っていくことの契機にしていいただければと思う。大変よい施設が出来たと思うので、皆様も時間のある時に見に行っていただきたい。

このまま議事の進行に移る。

(2) 利活用計画の骨子案について

○事務局（図書館長）

瀬戸市立図書館の利活用計画の全体像案をご覧ください。こちらの資料は、計画全体像となり、最終的には市民に公表していく資料となる。たたき台となるものなので、皆さんの意見をお聞きしながら修正を重ね3月末までに完成させる全体図となる。図書館の新館はチャンスがあればいつでも建てたいという気持ちは、皆さんと同じであるが、現状としてこの建物を利用していくに当たり、より使いやすいように改修していく必要があり、何もかも詰め込みすぎた本館を、情報ライブラリー、地域図書館をうまく活用し、機能分散させ、全体で図書館サービスを行っていくということ、機能分散させることで本館をスリム化し、改修を行っていくことがこの利活用計画の目的でもあり、昨年までの協議会でそのことを確認しているところである。

さて、利活用計画は、どのような図書館にしていくかという未来像を上位計画である第6次瀬戸市総合計画、第2次瀬戸市教育アクションプランを踏まえて、立てている。図の一番上の四角の枠に利活用計画の3つの柱ということでまとめているが、本日配布した資料1で説明させていただく。

・事務局（図書館長）より資料1に基づき説明

これらの3つの柱をもって、利活用計画の骨子案としてまとめたものが、利活用計画の全体像案の真ん中の四角の枠にある骨子案である。こちらも資料2として、まとめてある。

・事務局（図書館長）より資料2に基づき説明

○委員

私は4、50年瀬戸に住み、図書館を利用しているが、送られてきた資料を見て、図書館は地域で行事等、色々なことをやっていると今回初めて知った。非常にいいことをやっているのにそれが知られていない、たまに広報に載るくらいで、もうすこしよく利用してもらえるように、瀬戸で唯一の高い文化施設なので、パンフレットを広報に挟むとか、広報活動が足りないと思う。いい図書館なのに残念だ。

○委員

前回の協議会の時に、新海委員からこの本館を利用している人たちは、小学校までの割合

が高く、40歳から49歳までの大人、つまり子どもを連れて来館する人が多いので、そのような人たちを本館では大切にしたいほうがいいのではという意見があり、私も同感した。本館のターゲットは学びを深めたい人とあるが、やすらぎ会館で行っているブックスタートで図書館を紹介された親御さんが、読み聞かせを聞いて、図書館の来館者となっている部分が多いと思う。そういった人たちがターゲットに含まれているならいいが。

○事務局（図書館長）

広報活動については、今後、勉強して上手な広報活動が出来るようにしていきたい。

また、確かに、小学生の利用が多くて、中学生になると図書館離れしてしまうという傾向がある。

○委員

いいえ、ブックスタートを終えた小学生になる前の子どもとその親御さんについての意見です。

○事務局（図書館長）

確かに現在、ブックスタートを終えた後本館を利用する流れが出来ている。毎日の読みきかせも、ブックスタートのフォローアップ事業として続けているところである。その子たち向けの資料については絵本が中心となってくると思うが、その部分は残していきたいと考えている。また、子育て世代が使える施設として、やすらぎ会館・せとっこファミリー交流館・交通児童遊園・公民館が行っている子育てサロン等いくつかあり、団体貸出を行い本が置かれており、そこから貸出を行っている施設もある。今も十分使ってくれてはいるが、そのような親子が行きやすい場所をよりよく使ってもらいたいとも考えている。しかし、本館から絵本を全て無くしてしまうということは考えていない。

○委員

これまでの瀬戸市立図書館関係の流れや、制約なども含めて考えられており、非常に分かりやすくまとめられていると感じた。先ほどの広報の話もあったが、市民は図書館といえば本館しかイメージがなく、ただ単に古いねと思っているという感じはあると思う。地域図書館を含めたトータルでこういう構成になっており、こういった使い方もあるということを改めて市民に示す必要があると思う。今は骨子案の段階であるが、方向性が見えてきたら、広報等を活用して、市民に理解していただくことも大事である。本館・情報ライブラリー・地域図書館の3つがありそれを活用していくというのはコンセプトとして分かりやすいと思う。先ほど年代の話があったが、子どもが小さいときは図書館に連れてきたりするが、小学校の高学年から図書館に行かなくなり、大学生になり、社会人になり行かなくなる。途中で図書館とのつながりが切れてしまっている。また、定年してから図書館を利用するというのがあり、小さい子と高齢者は上手く活用できているが、小中高生、多世代の全ての人達が図書館で、知的好奇心を刺激して必要な情報を得ることが出来るとよい。もっというと「サードプレイス」となり、家にこもったり、仕事をするだけでなく、違う場所として図書館に居場所を求めて色々な知識を得たり、交流したりするということが起こるといいと思

う。「サードプレイス」や色々な世代の利用を考えることはとても重要で、特に小学校高学年くらいから高校生、社会人の若い人たちの利用が進むようなアクションを起こしてもらいたいと思う。その際に、今朝本館へ来て、改めて北川民次の陶壁はすごいなと感じた。小さいときはよく分からなかったが、改めて見るとすごいなと感じる。そういったところから知的好奇心を刺激され、北川民次について図書館で調べたり、といったストーリーがある形で図書館が作られていくとよい。古い、朽ちている図書館という形ではなく、いいものはいいものとして残して、その芸術性も含めて知的好奇心を刺激していけばいい。やはり、気になるのは中で、デザインや配置が今よくある図書館からすると旧来的であるので、デザインの見直しをしたり、現代の姿に合うような形でリニューアルしていただけるといいと思う。私は、フィンランドのヘルシンキの最近出来た図書館を調査したことがあり、実際行ってみたが、子どもから中高大、社会人がとても多かった。そういった人たちにとっての、サードプレイスになっており、色々なことを調べてみたり、より現代的なので情報ライブラリーといった形でインターネットで調べたり、3Dの装置で何か作ってみたり、何でもできる場であった。そこまで日本で必要なかは分からないが、新しい時代にあったライブラリーとしてその機能を発揮していただくといいと思う。

○委員

広報活動に関連して、瀬戸市でなかなか新しい図書館を作ってくれないというのは、図書館がどれだけ大事な物かということがよく知られていないからだと思う。こういうことをしっかりやって、瀬戸市で図書館の重要性を認識していただくというのは大切だと思う。5、10年前に、図書館新設のためのパブリックコメントがあって私も意見を出したが、新設には何がネックになっているのかをお話いただけるか。

○事務局（図書館長）

どうして図書館が新設されないかという点についてお答えする。図書館だけでなく、瀬戸市として今後、人口減少のことも考え、施設の総面積を増やさないとということになっている。瀬戸市の全体を考え、計画を立てたときに、図書館はすぐには建てないことに決まった事情がある。この協議会でも新しい図書館を建てたいと話しかけてきたが、今すぐには叶わないということになり、でも建物を使うのに委員からご意見いただいたように、古くなり使い勝手の悪くなってきているが、現状は、悪くなって使えなくなったところから直していくという改修をしている。そうではなく、この建物をまだ使っていくということで、サービス内容を考え使いやすいように、計画を持って改修していこうという流れで、利活用計画を作っている。

○委員

非常に分かりやすい資料を作っていただき、去年までの2年間色々お話をさせていただいたことが少しずつ盛り込んでいただけている。先ほど、加藤委員から年代のことがあったが、まず本館がスタートとなり、本というものをちゃんと見せることから始まって、一人で歩けるようになり、色々なところに行けるようになり、地域の図書館でもっと色々な本と出会う、

あるいは同世代の子たちと出会う。上手くいけばお年寄り等との世代間のつながりが出来ていく。そしてここが一番重要だが、中高生になって、情報ライブラリーで自分の人生に向き合ったり、この町でどうやって過ごしていこうかということを感じて、社会人の方が自分の仕事をどうしていくかを考えたりする様子を近くで感じながら、この町で暮らすということとここで作っていくようなイメージなのかなと思う。また、本館に行くときと詳しい本があるというように、世代のライフサイクルに沿ってくると回っていくプランなのかなと思った。この計画の中でこの三館のネットワークとかパッケージをどうやって駆動させるかという意味で本館の意味はとても大きいと思う。統一された意思があってはじめてそれぞれが活きると思うので、利活用計画の柱の中からそれを取り込んでいくということかと思う。実際にパルティセと連携していくときに、現場が話すのか、あるいは市立図書館として話すのか、そういったこともこの中で、これからこの計画を立てていく段階で、これは職員の力が非常に大きいと思うので、長い5年というスパンだがこの次も見つつ、他のところとも連携がとれつつ、ちゃんと話が出来るという職員体制をきちっと作っていくことが必要だと感じた。

先ほど、地域図書館の説明の中で地域資料の掘り起し、具体的にはアーカイブ化のことが出てきたが、市民の今の活動を残していく仕組みをこの中で作っていくべきだと思う。例えば、パルティセとの中に瀬戸まちの活動センター（市民活動）とあるが、実際に市民の方の今の活動をきちっと残していくという事、結果として歴史になってしまったものを集めるのではなく、これから歴史になっていくものをどうやって集めるかという視点、これは地域図書館だけではなく情報ライブラリーや本館であり、それぞれがきちんとつかんでいく必要があるだろうと思う。図書館が市民の活動をきちんと伝えていく、残していくという姿勢をちゃんと示せば、そういう資料はおのずと集められるのではないかと思う。記録が残るというモチベーションがあるから記録を残そうと思う方も掘り起していけるのではないか。これは、本当にこの町の図書館にしかできないことなので、それでもって瀬戸市立という冠がついた図書館が出来る。そのあたりを意識して取り組んでいただくことで、この町に必要な図書館が出来るのではないかと思う。そのためには職員体制をきちんとつくる必要があるのではないか。

資料の中で業務委託の話があるが、この5か年計画がいつからスタートして、5年でこれを作るのか、5年の中でチェックまで行くのか、そのあたりが見えなかった。図書館の運営上は、電算システムの更新であったり、カウンター業務委託の件であったり、その時点では動かしがたいことが入ってくるので、それをどう位置づけてこの5年間でどこまで持っていくのか、実際のタイムスケジュールを組み立てて、何をどこまでということをお示しいただければと思う。

○事務局（図書館長）

この利活用計画については、本年度末までに策定を完了させ、5年間でどのようにしていくかということをチェックして、5年後にこういった姿にするというものを作っていく

いと思う。この年にこういったことをするというタイムスケジュール等は次回お示しできればと考えている。

○会長

非常に分かりやすく整備していただいているが、単純化していくのではなく、こういったものが複雑に重なりあって繋がっていくのだろうと思う。現に、3、4年前に、本館、情報ライブラリー、地域図書館の調査をした際、地域図書館を利用している人のほとんどは本館も利用したり、他の市町村の図書館も利用しているという結果が出た。役割分担は、そこだけで完結するのではなく、こういう時はここ、という選択肢が繋がっていることだと思うので、単純に資料を分けたいということでは無いと思うので、繋がりが生まれるようなネットワークづくりが大切だと思っている。資料も大事で、職員も大事で、利用者がどう動いているかということも踏まえながら、複雑ではあるがそのネットワークを上手く作っていくことで今ある施設を上手く活かしていくことができるのかなと思った。

先ほど石川委員からデザインの話もあったが、滋賀県の長浜の図書館が新しくでき、今年調査をした。何が変化したのかという点についてだが、劇的に変わるということはなく、再開利用がとても多い。子どもが大きくなって、利用しなくなっていた人が新しくなったから利用しようかなと利用したり、図書カードの更新に来た人がとても多かった。そういった人たちの掘り起こしをするためにも、がらっと変えて刺激を与えなければならないと思いつつ、部分的に、どこかのポイントだけでもがらっと変えてみるというのもよい。

○会長

今日のご意見をいただいて、それを内部で検討しながら、この利活用計画をまとめていただくということによろしいか。個別にご意見があれば、事務局へ言っていただければと思う。これをもとに、計画策定に向けて進めていただきたいと思います。

(3) 利活用計画実現のための整備について

○事務局（図書館長）

・瀬戸市立図書館の利活用計画の全体像案「瀬戸市立図書館の利活用計画実現のための整備計画」に基づき説明。

この計画の策定にあたり、全国各地で図書館改革、新図書館建設を手掛けている「図書館と地域をむすぶ協議会」のチーフディレクター太田剛さんにお力添えをいただいている。太田氏より、利活用計画を実現するための整備方法を、先進事例を交えながらご説明いただく。

○太田氏

・先進事例を交えながら、整備計画について説明。

○委員

にじの丘学園校長の早川です。にじの丘ライブラリーは、本校で一番魅力的な場所であると思っている。議題（3）だけでなく（2）の内容も含んだ内容になりそうだが、お許しいただきたい。ツール、ルール、ロールの中の、ロールが一番興味を持った。特に市民サポー

ターの組織の見直しや外部アドバイザーについて、一緒にやっていけたらと思う。加藤委員から、小学生・中学生の利用が少ないという話もあったが、確かにこの年代の子どもたちは親に連れられてくるわけではないので、少なくなると思う。しかし、彼らの中の興味を持つ力というのは大人に比べてすごく高い。まして、吸収する力となるともっと大きなものがある。そういったところを彼らに提供したいと考えると、地域図書館は、非常に良い場所になりうると思う。興味を持つ力がかなり高いとはいうものの、どうしても偏りがちという傾向はあると思う。そういったところで、違う分野で興味をそそることがあると、すごく知的な幅が広がっていくのではないかと思う。もう一点、郷土愛に関する部分について、地域図書館の項目の中でも各地域図書館の地域資料に語り部の言葉というのがあるが、プラス今後の発展のために、子どもたちに瀬戸に関する誇りとか地域が好きだという事が必須だと思う。そこで、教員がそういった資料を整えていくのはなかなか難しい。そういったところが、サポーター、アドバイザーと呼ばれる方たちで、整備されていくと、瀬戸の将来を担う子どもたちを学校教育だけではなく生涯教育の幅広い中で育てていく点で効果が高いと思う。

○委員

他の図書館で色々な行事をやっているということだったが、瀬戸市の図書館でも、色々な事をやっているの、我々もビデオを作ることはできると思うので、そういったことはやっていただけるといいと思う。

今回初めて、協議会に出ささせていただいたが、途中スライドの説明に30分ほど要したので、皆様の良い意見を吸収するには、1時間半は短いのではないかと思う。できれば2時間取っていただくと、先ほどの内容に質問したり、いいところを取り入れるには瀬戸市の図書館はどうすればいいかということを考えたりできると思う。

○委員

太田氏の話聞いて、すごくわくわくした。市民にも図書館が変わっていくということをわくわくしてほしい。その際、ツール、ルール、ロール全てが大切だと思うが、私の中では、まずツールが変わっていくと市民がわくわくして使うきっかけができるので特に、魅力ある空間づくりというのは、お金をかけないまでも、市民が図書館変わったねとわくわくしてくれるようになると、ルールやロールが生きてくると思う。

○委員

先ほど、本館の本がだぶっているという説明があった。そのだぶった本を地域図書館に、地域ごとの歴史などがあれば、回してくれればよいと思う。お互いの地域に、それに似合ったものを発送するとか、見ていただく機会があればいいと思う。

〈質問等無し〉

○会長

この骨子案を5年間で利活用計画をするために実際にどうしていくかということ色々アイデアをご紹介していただけたと思う。そういったことも含めながら瀬戸で出来るこ

とをやり、それに上手く市民を巻き込んでやっていけたらよいと思う。そういった取り組みを進めていっていただきたい。会議の時間について、短いとのご意見があった件について、本来ならば2時間とればよいと思うが、皆様の都合もあり、限られた時間になってしまい申し訳ない。本年度中に2回目が開催できれば、具体的に進んだ利活用計画の話等を聞くことができると思う。今回十分議論が出来なかったかもしれないが、ご意見があれば事務局に伝えていただければと思う。今回は利活用計画のスタートの説明だったと思うので、今後この協議会で計画の内容を協議させていただきたいと思う。

(4) その他

○委員

とてもわくわくする話だった。特に、色々な県の図書館の様子を見てやりかたは色々あるのだと感動した。

○太田氏

紹介した先進事例は配布したパンフレット「綴」に掲載している。

〈質問等なし〉

・議長から引き継ぎ、図書館長が進行

5. その他

○事務局（図書館長）

この協議会の開催は、本年度今回を含めて2回を予定しており、次回の会議は2月ごろを予定している。その際、完成させた利活用計画をご確認いただきたいと思う。また、協議会前に皆様にご意見をお尋ねすることもあると思う。本日聞き足りなかったことや、気づかれたことがあれば図書館までお願いしたいと思う。日程については、時期が近付いたら日程調整させていただく。

5. 閉会

瀬戸市図書館協議会委員名簿

任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日

(敬称略)

区分(条例第5条該当号)	所属・団体	役職	氏名
学校教育関係者(1号)	瀬戸市立にじの丘中学校	校長	早川 寿
学校教育関係者(1号)	瀬戸市立效範小学校	校長	丹羽 光成
社会教育関係者(1号)	瀬戸市公民館協議会	会長	加藤 和守
社会教育関係者(1号)	愛知芸術文化センター 愛知県図書館	サービス課長	新海 弘之
図書館利用者(2号)	瀬戸図書館友の会	会長	加藤 絹子
図書館利用者(2号)	瀬戸市立水南保育園	園長	秋山 理咲子
学識経験者(3号)	南山大学総合政策学部	教授	石川 良文
学識経験者(3号)	愛知工業大学工学部	教授	中井 孝幸
市民公募(4号)	市民公募		福田 直美
市民公募(4号)	市民公募		馬宮 孝好

10名

瀬戸市図書館協議会条例

(目的)

第1条 この条例は、図書館法（昭和25年法律第118号。以下「法」という。）の規定に基づき、瀬戸市立図書館（以下「図書館」という。）の運営に関し協議をするため、瀬戸市図書館協議会を設置し、市民の教育及び文化の発展を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

(設置)

第2条 法第14条第1項の規定に基づく図書館協議会として、瀬戸市図書館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(組織)

第3条 協議会は、委員10人以内で組織する。

(担当事務)

第4条 協議会は、図書館が行う図書館奉仕に関し瀬戸市立図書館条例（昭和45年瀬戸市条例第19号）第6条に規定する館長（以下「館長」という。）に意見を述べることができる。

2 協議会は、館長の諮問に応じて、図書館の運営に関し調査審議する。

(委員)

第5条 協議会の委員は、次に掲げる者の中から瀬戸市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が任命する。

- (1) 学校教育又は社会教育の関係者
- (2) 図書館利用者
- (3) 学識経験者
- (4) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、任期中においても委員を解任することができる。

3 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第7条 協議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第8条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、図書館において処理する。

(委任)

第10条 この条例で定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

第6次瀬戸市総合計画

〈将来像〉

住みたいまち 誇れるまち
新しいせと

〈都市像①〉

- 活力ある地域経済と豊かな暮らしを実現できるまち
- (1) 地域産業の振興と人材の活躍促進
 - (2) 年齢や性別にかかわらず、働くことや起業・創業に挑戦できるまちづくり
 - (3) 地域経済の活性化につながる地域資源を活かしたシティプロモーションの展開
 - (4) 誰もがいきいきと、安心して働くことができるまちづくり
 - (5) 市民生活の利便性を高め、企業活動の活性化につながる都市基盤の整備

〈都市像②〉

- 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち
- (1) ライフステージに応じた切れ目のない子ども・子育ての支援
 - (2) 瀬戸で学び、瀬戸で育ててよかったと思える教育の実現
 - (3) 多世代が子育てに関わることのできるまちづくり
 - (4) 子育て世代に向けた魅力あふれる子育て情報の発信と定住の促進
 - (5) 都市基盤整備による居住環境の魅力向上と未来に向けた良好な環境の継承

〈都市像③〉

- 地域に住まう市民が自立し 支え合い、笑顔あふれるまち
- (1) 誰もがいきいきと、健康に暮らすことができるまちづくり
 - (2) 高齢者が生きがいを持って活躍し、支えあいにより、安心して暮らせるまちづくり
 - (3) 誰もが自立し、地域で支え合いながら生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり
 - (4) 地域の生活環境の向上と安全・安心な地域づくり
 - (5) 誰もが生涯にわたって学び、郷土に対する誇りと愛着を深める豊かな地域づくり

第2次瀬戸市教育アクションプラン

〈目指す姿〉

市民がくつろぎの空間の中で、自ら学ぶことができ、暮らしに役立つ情報を享受し、市民の学びと交流の場となっている。

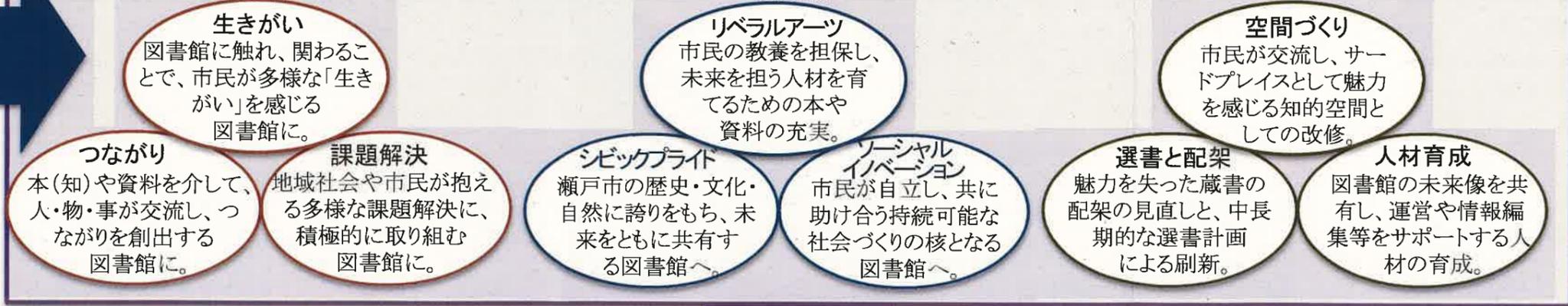
※赤字のキーワードの実現に向け、「知」の集積と「人材」交流の場として、図書館の在り方を大胆に改革する。

瀬戸市立図書館の利活用計画(5ヶ年計画)の3つの柱

瀬戸市立図書館が目指す3つの未来像

未来像に基づく図書館改革の3つの方向性

具体的なアクションの3つのポイント



瀬戸市立図書館の利活用計画(5ヶ年計画)の骨子

それぞれの機能と役割を明確化
蔵書と資料の棲み分けによる
人の移動と交流を促す

本館

- ・本を探す図書館から本と出会う図書館へ(蔵書・配架調整)
- ・小説類・児童書・実用書偏重から教養本の重視へ
- ・滞在型の図書館へ(ゾーニングと調度・デザインの見直し)
- ・中長期的な選書計画により魅力ある蔵書構成に刷新
- ・Web展開やメディア発信など情報コンテンツ編集力を高める
- ・空間づくりやメディア展開、蔵書再編集の支援人材育成

自動貸出機の導入による
カウンター業務の効率化

満杯の本館の蔵書の還流
(とくに小説・児童書の分散化)
地域コンテンツのアーカイブ化
ネットワークの構築

読書のためだけの図書館から
瀬戸市の未来を拓く図書館へ

情報ライブラリー

- ・中高生のキャリア教育と社会人の生涯学習に特化
 - ・立地の特性によりサードプレイス機能の重視
 - ・小説や児童書は置かず教養とスキルを磨く蔵書を重視
 - ・課題解決型レファレンス機能の強化(カウンター業務見直し)
 - ・「パーティせと」の機能との連携強化
- 学びキャンパスせと(生涯学習) 瀬戸まちの活動センター(市民活動)
大学コンソーシアムせと(リカレント教育)

地域図書館

- ・蔵書・配架を見直し魅力ある本棚を再編集
- ・居心地のよい空間づくりで地域サロン化へ
- ・サロンの3拍子もてなし/ふるまい/しつらいを担う人材育成
- ・親子での利用、子どもと年寄りなど世代間交流の仕掛け
- ・各地域ごとに特化した蔵書の特徴を工夫した企画棚の充実
- ・各地域ごとの郷土資料や語り部の言葉のアーカイブ化

通勤・通学拠点の
図書館と生活圏の
図書館の役割分担

瀬戸市立図書館の利活用計画実現のための整備計画

ツール

- ・蔵書管理システムを見直し、自由な本棚編集を実現
- ・調度・内装・照明の刷新で魅力ある空間づくり
- ・Webおよび紙メディアの充実による情報力強化
- ・電子書籍の効果的な導入と利用促進計画
- ・人・事・物の交流を促すツールの工夫

ルール

- ・選書ルールと調達プロセスの見直し
- ・リクエスト対応等の選書ルールの見直し
- ・館内ルールから図書館条例まで見直し
→瀬戸市の未来を拓く図書館への改革のため
全てのルールを見直して明示化する

ロール

- ・図書館・書店・その他民間活力の関係再編集
- ・カウンター業務の見直しと再設定
- ・市民サポーター組織の見直しと再構築
- ・5ヶ年計画の実現に向けた外部アドバイザー兼ディレクター制を導入

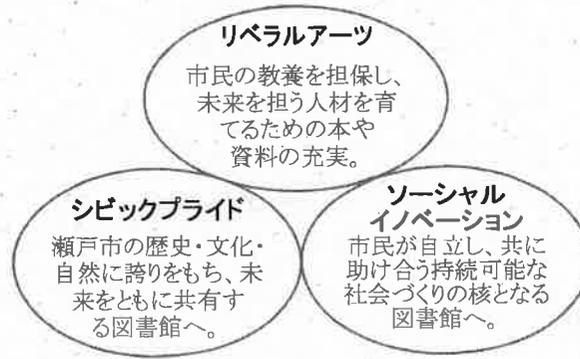
瀬戸市立図書館の利活用計画の3つの柱

資料1

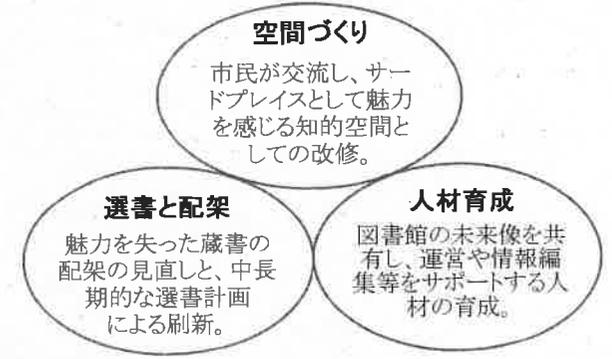
目指す3つの未来像



未来像に基づく図書館改革の3つの方向性



具体的アクションの3つのポイント



無料貸本屋からの脱出！

○図書館に来ることで、知的な刺激を受け、

生きがいを感じる事が出来る。

○図書館の資料を利用することで、

ヒト・モノ・コトが交わり、**つながり**を持ち、新しい何かが生まれる。

○図書館の資料・情報によって、**課題解決**が出来る。

3つのキーワードで、図書館改革

リベラルアーツ

幅広く深い知識を身につけること。

シビックプライド

地域への愛着ということだけでなく、地域に誇りを持ち、当事者として関わりを持って未来をつくっていくこと。

ソーシャルイノベーション

新たな考え方や仕組みを用いて持続可能な社会をつくっていくこと。

整備ための3つのポイント

空間づくり

知的で居心地の良い空間とするための改修

自宅(ファーストプレイス)でも職場・学校(セカンドプレイス)でもない、自分にとって居心地の良い時間を過ごせる第三の場所「サードプレイス」としての図書館

選書と配架

中長期的な選書計画。

書棚での本の魅せ方、並べ方。

※本屋さんとの役割分担。

人材育成

養成講座を開催するとともに、図書館サポーターを育成するしくみをつくる。

※市民が活動する図書館、市民とつくる図書館

情報ライブラリー

<施設の特徴>

尾張瀬戸駅に隣接

パーティセと市民交流センター

生涯学習の推進及び市民交流の創造を図るため、

市民の学びとふれあいの拠点

（条例第 2 条第 1 項）

<ターゲット>

中高生、社会人

<蔵書構成>

教養とスキルを磨く資料中心とする。

・パーティセと市民交流センターの機能との連携強化

学びキャンパスせと（生涯学習）

瀬戸まちの活動センター（市民活動）

大学コンソーシアムせと（リカレント教育）

・生涯学習等の共通の話題で多様な人と平等につながれる場所

・貸出返却業務のみだけでなく、レファレンスのできるカウンターに！

リカレント教育

すべての市民が、繰り返し自分の望んだときに自分が望む学習をする場が保証されているしくみ。社会人の学びの場。

本館

<施設の特徴>

歴史があり、知の蓄積がある。

図書館開館（1945.7.1）、現施設竣工（1970.6.16）

書店では入手できない資料がそろっている。

芸術性高い建物（北川民次の陶壁画）

<ターゲット>

学びを深めたい人

<蔵書構成>

幅広く深い知識を身につけるための資料を中心とする。

・ワクワクする図書館

（本を探す図書館から本と出合える図書館）

・知的活動を支えることのできる図書館

・情報ライブラリー、地域図書館に機能分散することで、スリム化し、施設の改修を行う。

（ゾーニング、書架の配置、デザインの見直し）

・魅力ある蔵書構成のための中長期的な選書計画

・情報の編集力を高め、Web 展開、メディア発信を行う。（HP の充実、SNS の活用）

・図書館サポーターの育成（講座開催）

地域資源（文化・歴史・自然・多彩な人・ユニークな物、かけがえのない事）を編集し、インターネットで公開したり、図書館の本棚構成やイベントの企画等を担う人材を育成。

地域図書館

<施設の特徴>

学校図書館…児童向けの本が豊富

中学校区に1館の設置予定…地域の人が利用しやすい

<ターゲット>

親子、高齢者、地域の人

<蔵書構成>

児童書、読み物中心（小説、大活字本等）

地域資料（地域資源の掘り起こし、語り部の言葉のアーカイブ化）

・魅力ある本棚づくり

蔵書構成に沿った配架の徹底。返却された場所での配架ではなく、本籍場所に戻す。

・地域サロンとしての空間づくり

サロンを運営する（もてなし/ふるまい/しつらいを担う）図書館サポーターの育成

・親子での利用、子どもとお年寄りとの世代間交流の仕掛け

太田剛プロフィール (2020.3.1更新)

株式会社ギア (編集工学機動隊 GEAR) 代表

「図書館と地域をむすぶ協議会」チーフディレクター

慶應義塾大学講師 (ネットワークコミュニケーション実践)

一般社団法人 日本食文化観光推進機構 理事

一般社団法人 学習環境研究機構 Fora 理事

活字文化議員連盟「公共図書館プロジェクト」事務局長

1965年(昭和40年)生。茨城県潮来市出身/和歌山県和歌山市生まれ。明治大学農学部農学科(応用昆虫学)卒業。イメージ・フォーラム付属映像研究所卒業。高校理科(生物)教員等を経て、1990年、編集工学研究所(松岡正剛所長)に入社。雑誌・書籍・映像媒体などのメディア制作から文化イベントの企画・施行、企業のCI戦略から事業戦略、自治体の観光戦略・地域おこし、各種システム研究・開発など、編集工学を応用した企画・制作・研究・開発を担う実践チームGEAR事業部を統括する。

岐阜県「ORIBEプロジェクト」をはじめ、メディアミックスした自治体のIT戦略・観光戦略と地域づくりを組み合わせたプロジェクトを数多く手がけ、地域コンテンツの掘り起こしと編集人材の育成を核とした「地域エディター養成」による地域活性化のアプローチには定評がある。とくに1995年の阪神淡路大震災を契機に金子郁容(慶應義塾大学教授)らと地域SNSシステム「コミュニティエディター」を開発し、地域ICT利活用の数々の実証実験プロジェクトを推進。ICTを活用した地域活性化のスペシャリストとして国・都道府県・市町村の各種事業に参画。2004年より慶應義塾大学SFCにて「ネットワークコミュニケーション実践」を受け持ち、SNSによる共同知の相互編集について実践授業を展開する。

また、松岡正剛氏と共に20年以上にわたり、教育・学習環境に関わるシステム開発・教材開発や、図書街プロジェクト(NICT+総務省)や松丸本舗(丸善)、本座プロジェクトをはじめ、数々の出版文化・読書環境に関わる先進的なプロジェクトを研究・開発・実行し、2010年からはネット上のハイブリッド書店「honto」(大日本印刷/CHIグループ)の立ち上げにコンテンツDB統括リーダーとして参加、書籍の書誌DBと管理システムを徹底して調査・研究する。

2012年に株式会社ギア(編集工学機動隊GEAR)を設立。世界中のハンセン病コロニーやミャンマー少数民族武装勢力等の記録映像撮影(日本財団)に携わる。また、幕別町図書館(北海道)の図書館改革を契機に「図書館と地域をむすぶ協議会」を設立。茂木町(栃木県)「ふみの森もてぎ」や梶原町(高知県)「雲の上の図書館」(設計:隈研吾建築都市設計事務所)などの新図書館建設や、既存図書館の改革など、図書館を地域づくりの核として位置づけ、持続可能な地域社会モデルの構築に向けて全国を奔走中。

2019年からは、活字文化議員連盟(超党派による衆参国会議員約100名が参加)「公共図書館プロジェクト」事務局長に就任し、未来にむけた図書館改革を推進中。

《地域づくりとICT活用に関わる主な業務経歴》

(D=ディレクター/E=エディター)

- ・ 述語検索型資料管理システム開発(外務省)/D
- ・ 鈴鹿市交通文化都市構想(本田技研)/チーフD
- ・ マルチメディアDBツール『電腦歳時記』開発(オムロン)/E
- ・ コミュニティナレッジ・シンポジウム(アップル・ニフティ)/チーフD
- ・ 連想ナビシステム『京都ハイパー絵巻』開発(オムロン)/E
- ・ 京都デジタルアーカイブプロジェクト(経産省・京都市)/チーフD
- ・ 札幌市地域文化資産デジタルアーカイブ構築業務(札幌市)/チーフD
- ・ 岐阜県情報化戦略策定業務(岐阜県)/チーフD
- ・ 岐阜県情報化戦略策定業務(岐阜県)/チーフD
- ・ 岐阜県デジタルアーカイブ「岐阜窓庫」企画制作(岐阜県)/チーフD
- ・ 金沢市文化芸術振興条例策定業務(金沢市)/チーフD
- ・ 多治見市商店街活性化プラン策定(多治見市)/チーフD
- ・ 箕面市編集人材育成事業「Editみのお」(箕面市)/チーフD
- ・ 地域ICTシステム「コミュニティ・メーカー」開発(NTT)/チーフD
- ・ 地域ICT実証実験(NTT・洲本市・桐生市・藤沢市)/チーフD
- ・ 藤沢市民電子会議室(藤沢市)/世話人
- ・ 全国市町村アカデミー「ITと市民コミュニティ」講師
- ・ 「ICT住民参画研究会」(座長:石井威望)WG委員(総務省)
- ・ コンテンツ配信標準化委員会委員(日本規格協会)
- ・ 伊那デジタルソフトバレー構想(NECホームエレ)/チーフD
- ・ 災害時におけるネットワークサービス相互接続研究会 事務局(経産省)
- ・ ネットワークコミュニティ研究プロジェクト(ニフティ)/チーフD
- ・ 岡崎市新美術館設立事業(岡崎市)/映像D
- ・ 市民電子会議室立上げアドバイザー(鳥取県・三重県・豊橋市・札幌市ほか)
- ・ 地域SNS市民記者養成プロジェクト(浜松市・秩父市)/チーフD
- ・ 地域コンテンツエディター養成アドバイザー(総務省)
- ・ 民主党電子コミュニティ実験(民主党)/チーフD
- ・ 平成20年1300年記念ファイナルフォーラム(奈良県)/映像D
- ・ 奈良県デジタルアーカイブ「ナラジア」構想(奈良県)/チーフD

《メディア編集制作・システム開発・コンサル等の主な業務経歴》

(D=ディレクター/E=エディター)

- ・ 日経ベンチャービジネス協会会報誌/チーフE
- ・ JMAジャーナル巻頭連載(日本能率協会)チーフE
- ・ 書籍Books IN Formシリーズ(NTT出版)/E
- ・ TheOPERAプロジェクト(リクルート)/E
- ・ 文藝春秋連載NTT「情報は生きている」シリーズ(NTT)/E
- ・ NTT「ドクターズカタログ」シリーズ
(日経ビジネス・東洋経済・ダイヤモンド連載)/E

- ・ 雑誌「レジュメックス」(リクルート) / E
- ・ 雑誌「トワイライト・レビュー」(太田出版) / チーフE
- ・ NTTグループ企業CF「図書館篇」コンセプト・シナリオ / E
(カンヌ映画祭広告映像部ブロンズ賞受賞)
- ・ ワーク・デザイン・シソーラス・プロジェクト(リクルート) / E
- ・ 野村証券10年次社員研修(野村証券) / テクニカルD
- ・ I S I S 編集の国プロジェクト / チーフD
(NTTドコモ・ソニーME・凸版印刷・アコム・資生堂 etc)
- ・ 事業創出型知財流通基盤『パドック・システム』開発(三菱商事) / D
- ・ 岐阜県織部賞授賞式 / 第1回～6回(岐阜県) / 映像D
- ・ インテリジェント・パッド・コンソーシアム企画委員
- ・ インターネット万博企業バビリオン チーフD(KDD、日立、札幌市)
- ・ 日立製作所全技術PRビデオ(日立製作所) / チーフD
- ・ 日日会オープニング映像(日立製作所+日本生命) / チーフD
- ・ ブリタニカ百科事典デジタル化計画(ブリタニカジャパン) / チーフD
- ・ 家庭用デジタルプラットフォーム「SUMIKA」(積水ハウス) / チーフD
- ・ デジタルコンテンツ編集プラットフォーム実験(富士フィルム) / チーフD
- ・ インターネット上の情報検索の活用に関する調査研究(総務省) / チーフD
- ・ 複合機開発コンセプトメイクおよび商品ラインナップ再構築(キヤノン+博報堂)
/ コンサルおよびファシリテーション
- ・ マルチアーカイブビデオ『蘇る空海』(密教21フォーラム) / チーフD
- ・ 携帯向けメルマガ型コンテンツ流通配信実験(サイバード) / チーフD
- ・ Web『密教エンサイクロメディア空海』(密教21フォーラム) / チーフD
- ・ オムロン技術広報紙『メタモルフォシス』制作(オムロン) / チーフD
- ・ 書籍『ナレッジ・サイエンス』(北陸先端科学技術大学) / チーフD
- ・ 浄土真宗Webサイト『デジタル回向』(築地本願寺) / チーフD
- ・ 事業戦略に関わる調査研究(オリエンタルランド) / チーフD
- ・ 世界のハンセン病制圧に関する記録映像撮影(日本財団) / チーフD
- ・ ミャンマー少数民族武装勢力支援状況記録映像(日本財団) / チーフD

《教育・書籍・読書関連のシステム・教材開発等の主な業務経歴》 (D=ディレクター/E=エディター)

- ・ 学習プラットフォーム『エディット・テーブル』開発(文科省) / チーフD
- ・ 数学デジタルコンテンツ作成(慶応中学・文部科学省) / チーフD
- ・ 住民参加型教育コンテンツ流通実験(箕面市・岡山市・総務省) / チーフD
- ・ 金沢市学習プラットフォーム実験(NTTコム・金沢市・総務省) / チーフD
- ・ 箕面市全小学校「編集教室(メディアリテラシー授業)」実施(箕面市) / 講師
- ・ 千代田区IT教育実験(千代田区青年会議所) / チーフD
- ・ デジタル学習教材『STEP』開発(文科省・科学技術振興財団) / チーフD
- ・ ITを利用した理科学習実験(慶応幼稚舎ほか) / チーフD
- ・ 学習コンテンツ流通配信「エデュマート」構想(総務省) / チーフD
- ・ SVRシステム学習教育利用実験(総務省) / チーフD
- ・ 歴史教育ビデオ『新代表的日本人』(NTTエデュケーショナル) / チーフD

- ・ 「高校基礎理科教科書」科学技術年表作成(東京書籍) / チーフD
- ・ 歴史教育ビデオ『高速歴史教室 X Y Z 日本史』 / チーフD
- ・ 開隆堂高等学校「情報科」情報誌「IT時代の情報教育」連載コラム執筆
- ・ 歴象探索型教育システム「クロノス」開発リーダー(経産省+慶應義塾大学)
- ・ 幼児用教材「こくごおけいご教室」開発(栄光ゼミナール) / チーフD
- ・ 教育学習BOOKコミュニティ「ほんどこ」プロジェクト(シスコ) / チーフD
- ・ 図書街プロジェクト開発リーダー(NICT+総務省+慶應義塾大学)
- ・ 国民読書年プロジェクト読書SNSチーフD(文部科学省+大日本印刷)
- ・ 仮想本棚SNSサービス「本座」チーフD(編集工学研究所)
- ・ 「松丸本舗」ブックウェア計画(丸善) / チーフD
- ・ ネットワーク総合書店「honto」(大日本印刷) / コンテンツDB統括リーダー

《図書館関連プロジェクト》

- ・ 全国リレーシンポ「知の地域づくりを考える」帯広市・和歌山市・多摩市
(文字・活字文化推進機構) コーディネーター / パネリスト
- ・ 活字文化議員連盟「全国書誌情報の利活用に関する実務者会議/作業部会」委員
- ・ 幕別町図書館システム改修プロジェクト コーディネーター(北海道幕別町)
- ・ 「ふみの森もてぎ」図書館 ソフト計画(栃木県茂木町) / チーフD
- ・ 図書館エディター養成講座(幕別町) / 講師・チーフD
- ・ 「図書館を核にした活字と笑いで活気あるまちづくり事業」
地方創生加速化交付金事業(北海道幕別町) / チーフD
- ・ 「ゆいの森あらかわ」新図書館建設アドバイザー(東京都荒川区)
- ・ 「図書館資源を活用した困難地域等における読書・学習機会提供事業」チーフD
(和歌山県那智勝浦町/文部科学省採択事業)
- ・ 「雲の上の図書館」建設ソフトコーディネーター・アドバイザー(高知県梶原町)
- ・ 岐阜市立中央図書館「みんなの森 ぎふメディアコスモス」司書研修講師
- ・ 那智勝浦町立図書館電算化システム導入事業(和歌山県那智勝浦町) チーフD
- ・ ヴィアックス研修センター/テクニカルサポート室研修(ヴィアックス) 講師
- ・ 活字文化議員連盟「公共図書館プロジェクト」事務局長
- ・ 那須塩原市「黒磯駅前新図書館建設」運用プラン策定アドバイザー
- ・ 椎葉村図書館「ぶん文 Bun」プロデュース業務(宮崎県椎葉村)
- ・ 講演・フォーラム・シンポジウムなど
札幌市中央図書館/島根県公共図書館協議会/大阪公共図書館協会/
宮崎県公共図書館連絡協議会/九州経済調査協会/山梨県書店商業組合
未来の図書館研究所研修会講師/秋田県読書推進シンポジウム/
松山市子ども読書推進フォーラム/国立教育政策研究所「図書館司書専門講座」
静岡県図書館大会基調講演/栃木県公共図書館協会/ほか多数